

大野市総合計画・総合戦略推進会議 第3回デジタル部会 議事メモ

日時 令和5年10月16日(月) 午後7時～9時

場所 結とびあ 201・202号室

○出席者

委員：9名

事務局：3名(政策推進課職員)

1 開会

事務局より開会

2 部会長あいさつ

- ・ 第1回と第2回と合わせて、100を超えるアイデアが集まった。
- ・ 本日、それらのアイデアをもとに作成した報告書の素案について意見交換をしていただこうと考えている。
- ・ すべてのアイデアが報告書に反映されている訳ではない。市民目線で入れた方が良くと思うアイデアや、深掘りした方が良くと思うアイデアなど、忌憚のないご意見をいただきたい。

3 説明事項

(1) 報告書(素案)について

事務局より説明

【意見交換】

事務局 保育所、学童、学校の各支援システムについては、素案に記載したものの令和5年度中に導入予定のため、報告書から削るか、追加的な内容があれば記載するかを検討したい。

部会長 各システムの導入は大事なことであり、効果が期待されるものである。導入予定であっても活発な意見が出たので削らずに記載してはどうか。

事務局 導入予定の水準からステップアップさせるような言い回しで記載する。

部会長 商工業分野のアイデアが本文にまったく拾われていない。1つも出さないというのはいかがなものか。

事務局 デジタル地域通貨に関する取組みを記載する。

委員 「行政のデジタル化」分野から3つというのは少なすぎる。
事務局 取組みを再考する。

委員 電子決済は観光客のためを思うと、報告書に記載してほしい。
事務局 検討する。

部会長 市議会のリモート化は可能なのか。

委員 現行の条例上はできないが、議会内部でもなんとかできないかという検討はしている。

委員 確定申告の窓口は混雑する。こういった時期的な混雑を予約システムで解消したりできないか。

事務局 住民健診の予約システムと同じような形で記載できないか検討する。

委員 高齢者など、デジタルに苦手な人が円滑に利用できるようになる取組みも必要では。

事務局 そのような視点は重要であり、デジタルデバイドの分野で取組みを挙げている。

委員 防災の取組みについて、行政主導であるべきと思うので、行政のデジタル化に移してはどうか。

事務局 「行政のデジタル化」は行政内部の事務として捉えており、住民に関わりの大きいものは「地域社会のデジタル化」に含めるべきと考えている。逆に「行政のデジタル化」の「その他」に記載されている関連する取組みを「防災」の分野に入れるべきかと考える。総じて、分類の仕方は一度見直す。

委員 市民が「便利だな」と感じる取組みがあることが報告の視点として大事。
事務局 報告書のなかで利便性が感じられないものがあれば遠慮なく言っていただきたい。

委員 多くの意見が出ているが、本日の意見は再度部会員に諮るのか。
事務局 部会長と事務局に一任いただけないかと考えている。

委員 「市民が便利と感じる」という観点も重要であるが、観光分野は、市外の方がターゲットである。そこを見誤ると、オーバーツーリズムに陥っ

てしまう。いかに「市民に迷惑をかけない」という視点も必要である。例えば、マイカーを減らしてバスを走らせる。環境負荷を軽減するような方策を予約システムや情報集約など、デジタルで支援できないか。観光はストーリーであり、点を繋いで線、面にすることが必要。交通と宿泊とガイドを結びつけて、一覧化して、そのまま一元的に予約できるような仕組みができると良い。

委員 イベント時の駐車所の混雑の見える化にデジタルを活用できないか。道の駅のライブカメラなど。

委員 デジタル推進員の任命のところで、デジタルを指導できる人材の育成も大事だと思うので触れてもらいたい。

委員 工業分野は、人手不足に直面している。いかに人の手をかけないようにするのが重要な視点。そのためには設備投資が必要である。

部会長 報告書の形ではなかなか表現しづらい。

委員 市の説明会など忙しくて行けない場合がある。オンライン配信がされるとありがたい。

事務局 オンライン配信は、職員が手間を掛けた分だけ視聴してもらえるかが課題である。

委員 保育システムのところ、子どもと向き合う時間を増やすという趣旨の表現を入れてほしい。

事務局 保育、学童、学校の各システムに共通することなので入れるようにする。

委員 子どもの遊び場の駐車場について、混雑の見える化をしつつ、公共交通を活かして、併設の駐車場以外の活用も検討できないか。

事務局 公共交通の制約もあるため、全てを反映できないこともある。

委員 文化芸術は、デジタルと遠い分野ではあるが、伝統の踊りや歌など、将来に正しい所作を伝承していけるかという問題がある。それをデジタルの力で解決できないか。

部会長 保存会も高齢化し、教える先の小学校もなくなるような状況であり、本当に悩みである。モデルを作っていないと、どんどん衰退してしまう。

事務局 令和2年度に地域の伝統踊りを動画配信サイトに掲載している。

委員 動画配信というよりは、アーカイブ化するというイメージ。
委員 市内の伝統踊りの振り付けを DVD にしたものはある。
委員 データの存在を知らない人もいるので発信することが重要である。
委員 歌舞伎などが今も現代に残っているのは、厳しい目をもったファンが熱心に批評をするからである。絶えず市民の目に留まるような場をデジタルの力で作ることができると良い。

委員 多くのアイデアからどのような基準で報告書にピックアップしたのかの基準と、末尾に、「今後議論を進めて、実現に向けて進めてほしい」というように提言の形になるように記載すると良い。

事務局 そのように記載する。

(3) その他

事務局 本日の意見を元に修正を検討する。修正は部会長と事務局に一任いただきたい。

4 閉会あいさつ (部会長)

- ・全3回の部会での意見交換を経て、報告書がある程度形になったと思う。後は部会長である私と事務局で仕上げの作業を行い、11月の全体会議でしっかりと報告する。
- ・この報告書の提案が市の施策に反映され、デジタルを活用して「市民誰もが便利で快適に暮らせる社会」の実現につながることを期待している。
- ・皆様には3回に渡り、積極的にご意見をいただいたことに感謝申し上げます。

>>終了